

## 私しか知らなかった故石井光春先輩の秘密

丸山暢久（4組）

既にご承知のように54期の石井光春先輩が11月15日にお亡くなりになりました。18日に61期の滝澤進さんから電話で連絡をいただく迄、まったく知らず驚きました。滝澤さんもその時は正確な状況をご存じなく、偶々私は石井先輩のお宅まで徒歩10分程に住まいしていましたので直ぐに御靈前を持って伺いました。

ご遺体は麻雀好きなご主人の為に普段ご友人と楽しむ麻雀部屋に安置されていました。お顔は安らかでホッとしました。奥様のお話では9月1日に体調が優れず、毎年の健康診断をしておられる昭和医大に入院されたとの事。伺った時にはご長女と米国から急遽帰国されたご長男も居られ、色々なお話をしました。私は関東同窓会のゴルフコンペに行く時に(当地に転居後は)必ず石井先輩を乗せて行きます。コンペの1週間前になると石井先輩から「ピックアップ頼みます」と言うメールが来ます。石井先輩はお酒、特にビールがお好きでゴルフ場に着くと朝からビールを飲まれる事も度々あり、私が近くに越して来たことは好都合だったのです。行き帰りの車中では経済や政治の話、それとご自身の体調の話をしながら、また時には住友商事の専務を退任された時のこぼれ話等も聞かせてくれました。住商の中国代表の時に当時の江沢民国家主席や中国首脳と面会した事などお話ししてくれました。11月21日の告別式では、その時の写真が入り口に展示されていました。

石井先輩の追悼文を上原昇君（2組）から頼まれていましたので、49日明けにと思いましたが、喪が明けるのは正月三が日になるので急遽思い立って書くことにしました。

訪問した日にご家族とお話ししていた時に、車中で色々な話をした中で（多分、昨年の春のコンペの時ゴルフ場に向かう時）、石井先輩が何か困り事があるような様子なので不審に思っていた処、「丸さん、実は目黒の書店で以前から欲しかった本を注文していたのだが、昨日その本を受け取った嬉しさで財布をカウンター付近に忘れてきてしまったんだ。悪いけど帰りに寄ってくれないかな」と言うので「勿論ですよ、ゴルフ場から一応電話しておく方が良いですね」と言いましたが、まだ聞いていませんでした。そして石井先輩が続けて「あの財布には現金が幾らとカードが全部入っているんだけど大丈夫かな？」と心配そうに言いますので、私が「大丈夫ですよ、あの書店（目黒駅ビルにある有隣堂）なら私も時々行きますが、店員もしっかりしていますから保管されていると思いますよ」と返答。でも心配そうでした。何よりも「家内には言ってないから、そんな事を言ったら怒られるからな～」と落ち込んでいました。帰りに石井先輩が書店に行き、戻ってきた時の表情が嬉しそうだったので“あったな”と感じ、「丸さんの言った通り現金もカードも全部あったよ！」とそれこそ破顔一笑。

私はこの話は当然奥様に伝えてあると思い込んでお話しした処、奥様は「まあ私は全然知

りませんでした。私に叱られると思って黙っていたんですね。」

私もびっくりして「え！ そうなんですか？」と。しかし奥様は柔軟な表情でご遺体に向かって「お父さん、今聞きましたよ」と言い、ご家族共々皆で（失礼）大笑いでした。

石井先輩も天国に向かう途中で頭を搔いている事でしょう。他にもありますが私の腹の中に仕舞っておきます。

石井先輩、お正月は天国でゆっくりお過ごしください。

(2025年12月8日 記)



以上